

はじめに

人生に失敗がないと、人生を失敗する。

これは、“モタさん”の愛称で知られる精神科医・斎藤茂太先生の言葉です。生活を送るうえで、致命的な失敗はもちろん避けるべきですが、われわれ人間は失敗する動物ですし、その失敗から多くのことを学んできた歴史があります。

医療にも、失敗はつきものです。学生時代、いかにたくさんの知識を詰め込んでも、目の前の患者さんの治療やケアは、教科書通りにいかないことばかり。特に研修医のうちは、「なぜうまくいかないのだろう…」「あっちにすればよかった…」の連続と言っても、決して過言ではありません。ただし、失敗から学ぶことが大切で、失敗にいち早く気づき、真摯に受け止め、次に活かしていく姿勢こそが必要なのだと思います。

本書は、私が研修医向け雑誌『レジデントノート』に連載した「しくじりから学ぶ精神科薬の使い方」をベースとして、新たにいくつかの原稿を書き下ろしてまとめたものです。一般病院における入院患者への対応で想定される失敗例を切り口として、精神科薬の使い方や使い分けについて具体的に解説した、現場目線の一冊となっています。「失敗は成功のもと」「人の振り見て我が振り直せ」という趣旨のもと、しくじり症例から多くの学びが得られ、記憶に残ることは間違いありません。ぜひ、明日からの臨床にお役立てください！

本書の工夫として、リエゾン精神科医である私と研修医との会話形式になっているため、臨場感があって読みやすいのではないかと思います。研修医の先生はぜひご一読いただき、頭がフレッシュなうちに正確な知識を身につけてください。また、本書は研修医の先生ばかりではなく、ベテランの先生にもオススメです。私自身もそうなのですが、経験を積むにしたがって自分の失敗は自分で気がつきにくくなり、さらに困ったことには周囲からも指摘されなくなってしまいます。結果として、知らないうちに何度も同じ失敗をくり返すことになるため、本書で多くの気づきを得ていただければ幸いです。そのほか、医師だけでなく、精神科

の薬に興味・関心のある看護師さんや薬剤師さん、心理士さんなど、多職種の方々にも読んでいただきたいと思っています。

さいごに、総合病院で勤務している精神科医は全国的にもきわめて少ないのですが、その一方で、そこには多様なニーズが存在しています。入院患者の高齢化に伴い、認知症（Dementia）、せん妄（Delirium）、うつ病（Depression）のいわゆる「3D」が急増しているのもその一因と考えられます。そのような実情を踏まえ、全国各地で活躍中の日本総合病院精神医学会・若手委員会のメンバーに、それぞれの立場や経験を踏まえて、“リエゾン精神科医の魅力”をテーマにコラムを書いていただきました。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。

そのほか、リエゾン精神科医である私が、ふだんの臨床で意識していることについても、コラムでいくつか触れるようにしました。ちなみに、私がリエゾン精神科医を志したきっかけは、ある総合病院で勤務していた際、せん妄や認知症の患者さんの対応で病棟スタッフが日夜困っておられたことと、統合失調症の患者さんがその既往ゆえ十分な身体的治療を受けられないまま早期退院となったことの両方を経験し、そこに精神科医としてのやりがいや使命を感じたからです。

本書を読まれた研修医の先生が、少しでも精神科リエゾンに興味・関心をもつてくださることを願ってやみません。

2023年4月

新見公立大学 健康科学部 看護学科
井上 真一郎